2023

神戸学院大学を知ろう

神戸学院大学
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

① 神戸学院大学の理念など

神戸学院大学の目指す姿

―成長を実感できる大学を目指して―

建学の精神について

私立大学には、大学ごとに、それぞれどのような目的を持って創立されたかを示す「建学の精神」があります。

神戸学院大学の「建学の精神」は、**「真理愛好・個性尊重」**です。

この言葉に込められているのは、
「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、
その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重する」
ということです。
この「建学の精神」を、これからの大学生活を通じてみなさんに実践していただきたいと願っています。

建学の精神

神戸学院大学の初代学長 森　茂樹先生が、神戸学院大学を創立する際に、文部省（当時）に提出した「大学設置認可申請書」には次のように書かれていました。

大学設置認可申請書

「（前略）旺盛な真理愛好精神の涵養（かんよう）に精進（しん）し、かくて初めて自主的で個性の発達した良識ある社会人を育成することが出来るものと信じている。」

神戸学院大学の建学の精神**「真理愛好・個性尊重」**は、ここに示されています。

教育基本理念について

神戸学院大学は、目標とする教育を「教育基本理念」として、次のように示しています。

生涯にわたる人間形成の基点となりうる教育
優れた人へと成長していくための土台作りをしよう

生涯にわたり高い専門性を修得できる教育
いろんな分野で活躍できる専門家になるための準備にとりかかろう

グローバルな視点から地域社会の多様なニーズに対応できる教育
地域社会の人々がどんなことを必要としているかに気づき、大きな視野から考えて、それに応えられるような人になろう

三つのポリシーについて

神戸学院大学は、「真理愛好・個性尊重」という建学の精神のもと、自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指しています。この目標を実現し、自主的で個性豊かな良識ある社会人として卒業できるよう、三つの方針（ポリシー）を定めています。

どのような学生に入学していただきたいかという
アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

どのような学びが必要なのかという
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

どのような能力を修得して卒業すべきかという
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

▶アドミッション・ポリシー

神戸学院大学の建学の精神「真理愛好・個性尊重」とは、「学びと知の探求を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、お互いの存在をこよなく尊重できる」ことです。この建学の精神を神戸学院大学での様々な活動を通じて体得し実践していくことができる人を求めています。

そのために、以下のような学生を多様な選抜方法で適切に選抜します。

1. 高等学校の教育課程の教科の履修により培われた、本学入学後の学修に必要な基礎学力を有している人
2. 知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力を有している人
3. 他者とコミュニケーションをとり、良好な関係を築くことができる人
4. 課題に自ら主体的に取り組むことができる人

▶カリキュラム・ポリシー

学士課程においては、建学の精神である「真理愛好・個性尊重」及び全学のディプロマ・ポリシーに基づいて、「共通教育科目」および各学部・学科の「専門教育科目」において、各学部・学科の教育目標を達成する教育課程を総合的、体系的に編成します。講義、演習、実習等を適切に組み合わせた科目編成により授業を展開します。

1. 『共通教育科目』は、学部専門教育の基礎となる技能、社会人として必要とされる基礎的な思考力や実践能力を育成するための「リテラシー領域」と、文理10学部を擁する総合大学としての教育環境を生かし、専門の枠を超える広い視野と基礎的な教養を涵養（かんよう）するための「リベラルアーツ領域」によって編成されています。
   「リテラシー領域」は、言語分野、情報分野、基礎思考分野、高大接続分野、キャリア教育分野および国際化推進分野によって、「リベラルアーツ領域」は、神戸学院教養分野、地域学分野、芸術分野、スポーツ科学分野およびポーアイ４大学・TKK共通教養分野によって構成されています。
2. 『専門教育科目』は、専門的な知識と思考力を育成するために、各学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、体系的に編成されています。

▶ディプロマ・ポリシー

本学では建学の精神「真理愛好・個性尊重」すなわち「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標である自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指します。

この目標達成のため、本学では教育課程を通じて、卒業に必要な単位を取得して、各学部が定める卒業要件を満たし、次の能力を学修したものに学士の学位を授与します。

（知識・技能）

1．共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養（かんよう）している。

2．専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている。

（思考力・判断力・表現力等の能力）

3．幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

4．自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

（主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度）

5．獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。

以上が全学的なポリシーですが、その下に、各学部においてもそれぞれ三つのポリシーを定めていますので、こちらからご確認ください。

https : //www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/

Memo

② 神戸学院大学の歴史

初代学長　森 茂樹の思いとともに

みなさんが、これから４年間または６年間（薬学部）を過ごす神戸学院大学について、これまでの歩みとともに紹介します。

神戸学院大学は1966年（昭和41年）に創立。栄養学部１学部からスタートしました。創立者は、初代学長の森 茂樹先生です。

神戸学院大学は学校法人神戸学院が運営する教育機関の一つです。

学校法人神戸学院は大学の他に神戸学院大学附属高等学校と附属中学校を運営しており、2022年に創立110周年を迎えました。

初代学長　森 茂樹先生
小磯良平画伯による肖像画
京都大学医学部病理学教室所蔵

「学校法人」とは、私立学校の設立、運営を目的とする組織のことです。財団法人の一つで、私立学校を設立する目的のために、提供された財産を元に運営されています。

教育とは、元来、公共性が高く、社会の発展に関わることです。そのため私立学校には安定的な運営が求められ、その運営にも公共性、教育性が十分に反映されるように求められています。

また、利潤を追求する一般的な企業や会社などと異なって、公教育を行う主体にふさわしい、公共的な性格を高めるために様々な制度や仕組みが設けられています。

学校法人神戸学院の歴史は、1912年（明治45年）に森 茂樹先生の母である森 わさ先生が創立した「私立森裁縫女学校」から始まります。

校祖　森 わさ先生は、それまでの自身の生き方から、自立した精神を持った女性を育てたいと思い、その考えを実現するために学校を設立しました。

森 わさ先生

わさ先生は1868年（慶応４年）に淡路島で生まれ、1886年（明治19年）に結婚し、1888年（明治21年）６月に長女 登志得（のちの短期大学の初代学長）、1890年（明治23年）10月に次女 四津野が生まれ、子育てと家事に明け暮れる生活をしていました。しかし、1893年（明治26年）１月末に夫の新太郎が、わさ先生と幼い娘２人を残して病死してしまいます。しかも、わさ先生のお腹には新しい命が育っていました。夫の死からわずか１か月のちの２月26日に長男として、森 茂樹先生が誕生したのです。

わさ先生は、３人の子どもたちとこの先どのように生きていくかという苦難に直面しました。

その当時は女性が自立して生きることが困難であり、子どもを養子や里子に出す形で手放すことも少なくありませんでした。

1890年代（明治20年代）は小学校の就学率が向上し、小学校を卒業した子どもがさらに学ぶことのできる高等小学校や女子向けの裁縫学校なども各地に設けられ始めていました。

自立して生きることを選んだわさ先生は、教師になることを決心し、当時２～３歳であった茂樹を含む３人の子どもを実家に預け単身で上京し、東京の裁縫学校で学ぶことにしました。

淡路島に戻ってからも裁縫教師を目指してさらに勉学を続け、1897年（明治30年）に念願の教師の免許を得て働き始めました。

さらに、わさ先生は子どもたちの将来のことも考えて、1899年（明治32年）に、淡路の田畑を処分して神戸に移り住みました。

勉学に励むわさ先生に寄り添う
３人の子どもたち

神戸の学校で教師として働きながらもわさ先生は常に努力を続け、勤務していた学校において主席教員、校長代理へと就任していきました。

その後も、わさ先生はさらに、自分の理想の教育を実践することを目指しました。２人の娘が結婚し､末っ子の茂樹が旧制高等学校に進学する年齢になったことを区切りとして、教師を辞め、1912年（明治45年）１月23日に自身の学校「私立森裁縫女学校」を開設しました。

この学校が学校法人神戸学院の原点です。

現在の兵庫区五宮町に開設された「私立森裁縫女学校」は、たった８人の生徒から始まりました。その学校でわさ先生は、裁縫の技能を教えるだけでなく、社会に役立つ人物を養成するための教育を実践し、その方針は広く世間にも受け入れられました。たった８人の生徒から始まった学校ですが、すぐに遠方からも生徒が集まるようになりました。

長女の登志得は、勤めていた高等小学校を退職し、わさ先生の学校で教員として働き、登志得の夫の山西助一は、専務理事として学校の運営に携わり、ともにわさ先生を支えました。

その後、森裁縫女学校は順調に規模を拡大し、５年制の高等女学校へと発展していきました。

1912年１月　森裁縫女学校校門前で

長男の茂樹先生は、1912年（明治45年）に岡山の第六高等学校に進学しました。

旧制高等学校は、今の高等学校とは異なり数も少なく、卒業後はほとんどの学生が帝国大学へ進学し、様々な分野における指導者となるための第一歩を踏み出すための学校でした。

六高時代の茂樹先生
【山本弘子さま（森先生の三女）提供】

茂樹先生は第六高等学校に入学後、寮生活を始めました。ここで茂樹先生は、その後の生涯の友となる井上硬や菊池武彦と出会い、一緒に学び、生活を共にしました。茂樹先生たちは夜通し語り合うことも多かったそうです。そして卒業後は、ともに京都帝国大学の医学部に進学しました。

第六高等学校の授業風景
【第六高等学校同窓会本部　提供】

自分を厳しく律し、理想を求める母の姿を見て育った茂樹先生は、京都帝国大学卒業後も医学部の病理学教室に残り、生体染色の研究をしていました。1924年（大正13年）には脂肪染色に関する研究で日本病理学会から第２回ウィルヒョウ記念賞を受賞しました。

1926年（大正15年）１月に熊本医科大学の教授に任ぜられ、熊本に移りました。

翌1927年（昭和２年）１月から欧米に２年間留学し、ベルリン大学、プラハ大学において、主に内分泌学の研究を試みました。

帰国後の1930年（昭和５年）には、日本内分泌学会において「卵巣ホルモンと交尾期循環」という演題で講演を行い、内分泌学の分野で活躍しました。

その後は体質学の分野で研究を深め、1939年（昭和14年）には茂樹先生の立案により熊本医科大学に「体質医学研究所」を設立しています。

京都帝国大学時代の茂樹先生

単科大学に附置研究所を設置するといった前例はなかったそうですが、茂樹先生の粘り強い交渉の結果、熊本県議会をも動かして県からの予算を獲得し、国の機関に認可されました。

茂樹先生はその研究所の体質病理部の初代主任教授に就任しましたが、京都帝国大学から招へいされ、1940年（昭和15年）１月には医学部病理学病理解剖学第２講座の教授として再び京都に戻りました。

熊本医科大学　体質医学研究所

京都大学医学部資料館（当時の解剖学講堂）

その頃は第二次世界大戦が始まっていましたが、茂樹先生は闘病しながら病理学教室で研究を続けていました。

1945年（昭和20年）８月６日には広島に、続いて８月９日には長崎に新型爆弾が投下されました。

この時、京都大学からも研究者たちが広島に調査に入り、新型爆弾が原子爆弾であると突き止めました。その後、広島で被害を受けた人々の治療と調査のために、さらに人員を派遣し、茂樹先生はこの後の第二次調査団として広島に向かいました。

終戦を迎える頃、わさ先生の個人経営であった学校を財団法人化し、1945年（昭和20年）６月に財団法人神戸市森高等学校となりました。その年の11月にわさ先生の後を継いで長女の山西登志得先生が校長に就任しました。

山西登志得先生と山西助一理事は、戦後の教育改革に応じて、学校をさらに発展させていきました。創立40周年を迎えた1952年（昭和27年）４月には神戸森女子短期大学を開学させました。

翌年1953年（昭和28年）10月12日に、わさ先生は85歳で逝去されました。

戦前から戦後の復興期まで京都大学医学部病理学教室を支えてきた茂樹先生は、1956年（昭和31年）に京都大学を退官しました。

その後は関西医科大学の教授として教育に携わりましたが、その後すぐ1957年(昭和32年)には、山口県立医科大学に学長として招かれました。

そこで山口県立医科大学を国立大学に移管するという大事業にあたり、1964年（昭和39年）に国立山口大学医学部を発足させ、医学部長に就任しました。

湯川秀樹先生と
（京都大学 湯川記念館の前で）

学校法人の経営者がわさ先生から山西登志得先生・山西助一理事に変わる頃、短期大学のさらなる拡張と大学の設立構想があり、茂樹先生は山西登志得先生・山西助一理事とともに大学設立の構想の実現に関わることとなりました。

神戸森高等学校・神戸森短期大学の教職員の協力のもと、文部省（現文部科学省）に大学設置の申請を提出し、1966年（昭和41年）に認可が下り、現在の有瀬キャンパスの地に神戸学院大学が開学しました。

「栄養学部栄養学科」の１学部のみの始まりでした。初代学長には茂樹先生が就任しました。

これが神戸学院大学のスタートです。

開学までの期間が１年あまりであったため準備が十分に間に合わず、知名度も低かったために、当初は入学者もなかなか集まらず、資金繰りには苦しんだそうです。

完成直後の１号館と茂樹先生

しかし、茂樹先生の志は大きく、「真理愛好・個性尊重」を建学の精神に掲げました。自身の広い人脈を駆使して多くの著名な教員を神戸学院大学に招き、続いて1967年（昭和42年）には**「法学部」**、**「経済学部」**が開設されました。

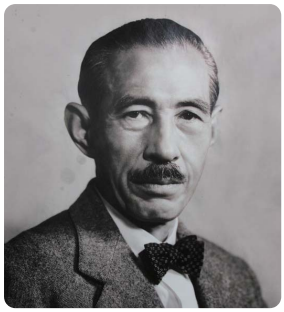
その当時の教員たちは、茂樹先生の神戸学院大学を「後世に残る大学」にするとの強い思いに共感し、茂樹先生とともに大学の発展のために尽力しました。

そのような発展の兆しの中、将来を見届けることなく、1971年（昭和46年）４月21日に茂樹先生は逝去されました。

茂樹先生の思いは、そのままその当時の大学の教職員に引き継がれ、その後も神戸学院大学は発展を続けます。

● エピソード ●

第六高等学校時代からの友人の井上 硬先生は、京都帝国大学医学部教授を経て、附属病院長、ウイルス研究所長を務められていましたが、茂樹先生が栄養学部の２代目学部長として本学に招かれました。



井上 硬先生
（第２代栄養学部長）

● エピソード ●

茂樹先生の学園葬の際に、同じく第六高等学校時代からの友人の菊池武彦先生（大阪赤十字病院名誉院長）が弔辞を読まれました。

その弔辞は、生前の茂樹先生の人柄を偲ぶ感銘深いものでした。

菊池武彦氏
（大阪赤十字病院第６代名誉院長）
【大阪赤十字病院　提供】

1972年（昭和47年）には、**「薬学部」**が開設されました。

1980年代には、ベビーブームの後押しもあり、入学者も増えてきました。
大学は、教員組織を強化し、施設・設備も充実させ、４学部すべてに大学院も設置するなど総合大学としての基盤が固まりました。

● エピソード ●

1982年（昭和57年）には、学校法人神戸森学園（学校法人神戸学院の前身）時代より、経営一筋に尽くしてこられた山西助一学園長が逝去されました。
山西助一先生は、森裁縫女学校の専務理事に就任されて以来、わさ先生、山西登志得先生、茂樹先生の教育理念と情熱を実現させ、理事長（のちに学園長）として法人を発展させてきた陰の功労者でした。

山西助一学園長

1990年（平成２年）には、教養科目（今の共通教育科目）を受け持っていた教養部を発展させて、**「人文学部」**が新たに開設されました。

その後、2004年（平成16年）には、経済学部経営学科を発展して、**「経営学部」**が、翌2005年（平成17年）には、**「総合リハビリテーション学部」**が相次いで開設されました。
有瀬キャンパスの15号館は、その当時、最新の充実した教育環境を備えていたので、学外から多くの人が視察に来られました。

2007年（平成19年）４月には、ポートアイランド第１キャンパスができました。レンガ造りの校舎が印象的なキャンパスです。

都市共生型のポートアイランド第１キャンパス（ＫＰＣ１）

緑があふれる有瀬キャンパス（KAC）

大小の講義室や充実した課外活動施設を有する
ポートアイランド第２キャンパス（ＫＰＣ２）

「知」と「情報」の発信拠点
神戸三宮サテライト

さらに、2014年（平成26年）４月には、**「現代社会学部」**が、翌2015年（平成27年）４月には、**「グローバル・コミュニケーション学部」**が新たに開設されました。

2018年（平成30年）４月には、人文学部人間心理学科が発展して、**「心理学部」**が開設され、現在では文理10学部、８研究科、学生数11,000人を超える神戸市内では最大規模の私立総合大学となりました。

2019年（令和元年）９月には、ポートアイランド第２キャンパスと神戸三宮サテライトを開設しました。

こうして神戸学院大学は、海のイメージを持つ都市共生型のポートアイランド第１・２キャンパスと、緑あふれる落ち着いた雰囲気を持つ有瀬キャンパスの３キャンパス１サテライトとなりました。

Memo

③ キャンパス・施設の案内

3つのキャンパス・サテライトについて

新入生のみなさんは、以下のキャンパスに分かれて学びます。

ポートアイランド第1キャンパス（**KPC1**と略します）
ポートアイランド第2キャンパス（同じく**KPC2**）
有瀬キャンパス（同じく**KAC**）

法学部、経営学部、現代社会学部、グローバル・コミュニケーション学部、薬学部のみなさんは、**ポートアイランドキャンパス**で学びます。

経済学部、人文学部、心理学部、総合リハビリテーション学部、栄養学部のみなさんは、**有瀬キャンパス**で学びます。

こんなときはこちらへ

Q1　授業のことや履修登録についてどこで相談すればよいですか。

A1　教務センターをお訪ねください。

学業に関すること全般や、卒業・進級に関する単位、教職や博物館学芸員の資格取得に必要な科目などの相談ができます。

KPC1　A号館1階　教務センター
KAC　6号館1階　教務センター

Q2 教員免許状を取得するには、どうしたらよいでしょうか。

A2 必要な科目（教職科目）については、教務センターでご相談ください。

KPC1 A号館1階　教務センター
KAC　6号館1階　教務センター

◆教員採用試験対策については、**教職教育サポート室**をお訪ねください。
日替わりで、小・中学校や高等学校で実際に教職に就いていたスタッフがサポートを担当します。
教員採用試験や教員養成に関する書籍も充実しています。

KPC2 1号館1階　教職教育サポート室
KAC　6号館5階　教職教育サポート室

Q3 どのような資格が取れるのか教えてください。

A3 課外講座・資格サポート室でご相談ください。

◆資格に関する疑問や不安に対して、学部や学年に合わせた資格取得プランを提案しています。

KPC1 D号館1階　課外講座・資格サポート室
KAC　15号館3階　課外講座・資格サポート室

※詳細については本学ホームページをご覧ください。

Q4 留学をするためには、まずどうしたらよいでしょうか。

A4 国際交流センターの窓口をお訪ねください。

留学について説明を聞くことができます。
受け入れ先の大学によっては、必要な条件等がありますので、早めにご相談ください。

KPC 1 D号館1階　国際交流センター
KAC　3号館1階　KAC学生支援センター（国際交流担当）

※詳細については本学ホームページをご覧ください。

Q5 レポートを書くための資料はどこにありますか。

A5 図書館をご利用ください。

KPC 1 A号館2～3階　ポーアイ図書館
KAC　有瀬図書館（本館・新館）

※詳細については本学ホームページをご覧ください。

Q6 パソコンの活用方法について教えてください。

A6 パソコン相談コーナーをお訪ねください。

パソコンの操作や印刷方法など、わからないことがあれば気軽にご相談ください。

KPC 1	A号館 4 階	パソコン相談コーナー
	D号館 3 階	情報処理実習室管理室（パソコン相談コーナー）
KAC	11号館 6 階	116G情報処理自習室内パソコン相談コーナー

※窓口対応時間については本学ホームページをご覧ください。

Q7 パソコンを自由に使えるところはどこですか。

A7 情報処理自習室、または図書館をご利用ください。

情報処理自習室の場所

KPC 1	A号館 4 階	情報処理自習室A
	B号館 2 階	情報処理自習室B
KAC	11号館 6 階	116G情報処理自習室

※ 情報処理自習室の開放時間については本学ホームページをご覧ください。

KPC 1　KAC

図書館でパソコンを使える場所と授業期間中の開放時間※

KPC 1	A号館 2 階	図書館パソコンコーナー
KAC	図書館本館 5 階	情報探索自習室Ⅰ
	図書館新館 1 階	情報探索自習室Ⅱ

※ 図書館の開館時間は、図書館のサイトから「開館カレンダー」をご覧いただくか、図書館へ直接お問い合わせください。
神戸学院大学図書館　https : //opac.kobegakuin.ac.jp/
（スマホの場合は、PC表示に切り替えてからご覧ください。）

Q8 大学生活全般に関する相談窓口は？

A8 学生支援センターの窓口をお訪ねください。

学生支援センターの窓口では、以下のことについて相談することができます。

- 住所変更届・在学証明書等の各種届・証明書について
- 学生証の紛失・再発行等について
- 定期券購入やシャトルバスの運賃補助等通学方法について
- 奨学金・奨励金・学費延納等について
- 学生生活に関わる保険について（学生教育研究災害傷害保険・医療費補助等）
- 下宿・アルバイトについて
- 課外活動について（Q９参照）
- グラウンド等の大学施設の利用申込について
- スポーツ器具やロッカー等の貸出について
- 学生生活における困り事・悩み事について（学生相談室、医務室、障がい学生支援室、学生の未来センター等と連携して対応します）
- 事故やトラブル等（落し物等）について

KPC１ A号館１階　学生支援センター
KAC　３号館１階　学生支援センター

Q9 課外活動（クラブ）に参加したいと思っています。

A9 学生支援センターの窓口でご相談ください。

KPC１ A号館１階　学生支援センター
KAC　３号館１階　学生支援センター

※　課外活動については以下のホームページに詳しく情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。
https : //www.kobegakuin.ac.jp/activity/

Q10 ボランティア活動に興味があります。

A10 ボランティア活動支援室をお訪ねください。

ボランティア活動について説明してくれます。
またボランティア活動の紹介も行っています。

KPC 1 B号館3階　ボランティア活動支援室
KAC　3号館1階　ボランティア活動支援室

Q11 体調が悪くなりました。けがをしました。

A11 医務室にお越しください。

けがや病気のとき、健康相談をしたいときは医務室を訪ねてください。
また、学校医によるアドバイスを受けることもできます。
相談内容は一切口外いたしません。気軽にご相談ください。

KPC 1 C号館1階　医務室
KAC　大学会館1階　医務室

※ 医務室については以下のホームページに詳しく情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。
https : //www.kobegakuin.ac.jp/support/student_life/dispensary.html

Q12 大学生活になじめず困っています。

A12 学生相談室でご相談ください。

大学生活に関することから、ちょっとした悩み事や精神的なことまで、気になることがあればご相談ください。

KPC 1 C号館１階　学生相談室
KAC 大学会館１階　学生相談室

Q13 障がいや持病があって困っています。

A13 障がい学生支援コーディネーターにご相談ください。

授業や学生生活での困りごと等について相談することができます。

KPC 1 A号館１階　障がい学生支援室
KAC ３号館１階　障がい学生支援室

Q14 嫌がらせをされているように感じています。

A14 ハラスメント相談室にお越しください。

深く悩む前に相談に行ってみましょう。
（なるべく事前予約をお願いします。）

KPC 1 D号館１階　ハラスメント相談室
KAC ４号館別館１階　ハラスメント相談室

※ ハラスメント相談室の利用案内については本学ホームページをご覧ください。

◆**学生相談室**でも相談できます。

KPC 1 C号館１階　　学生相談室
KAC　大学会館１階　学生相談室

Q15　学内の防犯等について教えてください。

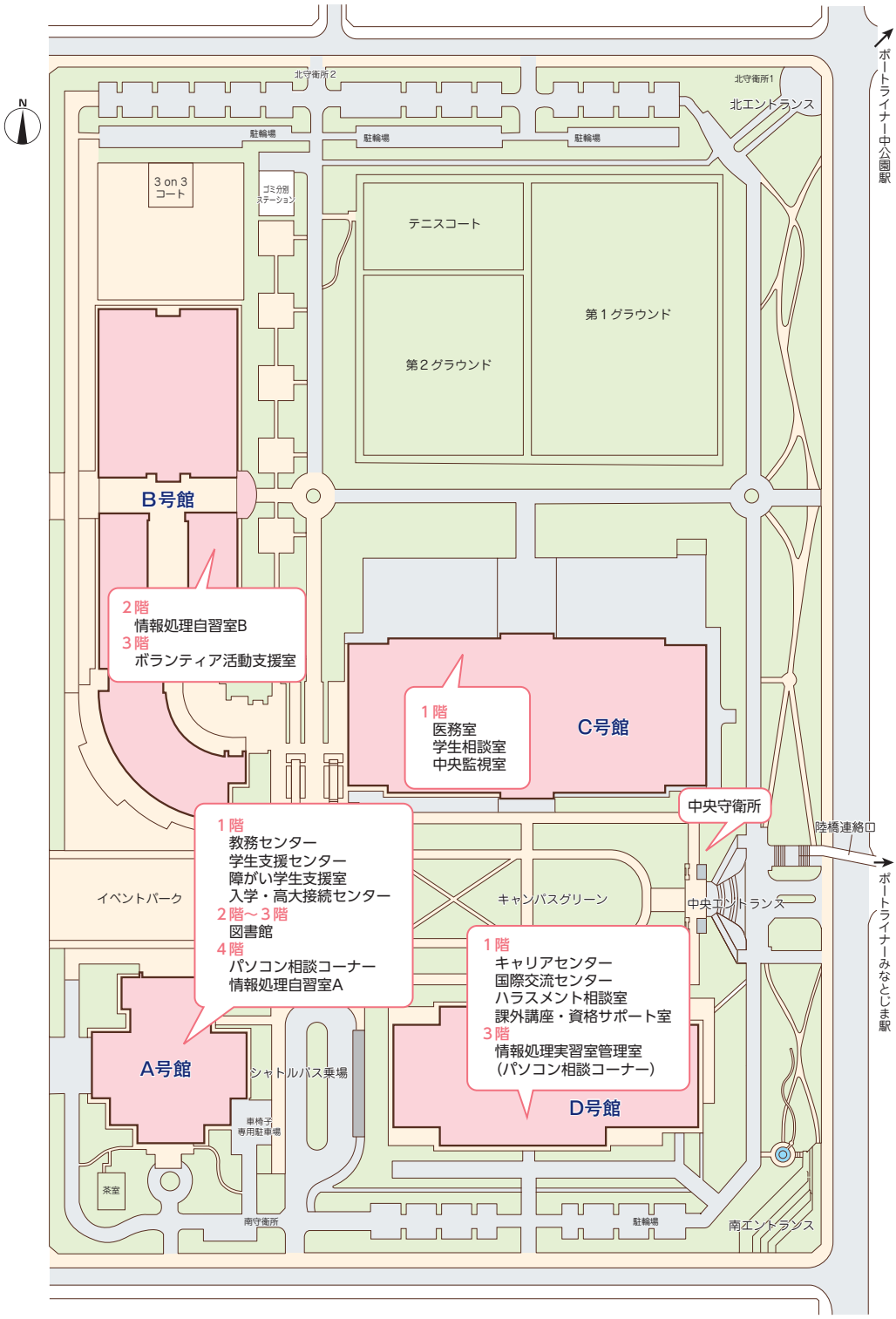
A15　警備室では、学内全体の防犯に努め、警備などを行っています。

KPC 1 中央エントランス　中央守衛所
C号館１階　中央監視室
KPC 2 ２号館１階　KPC２中央監視室
KAC　北門警備室、正門警備室

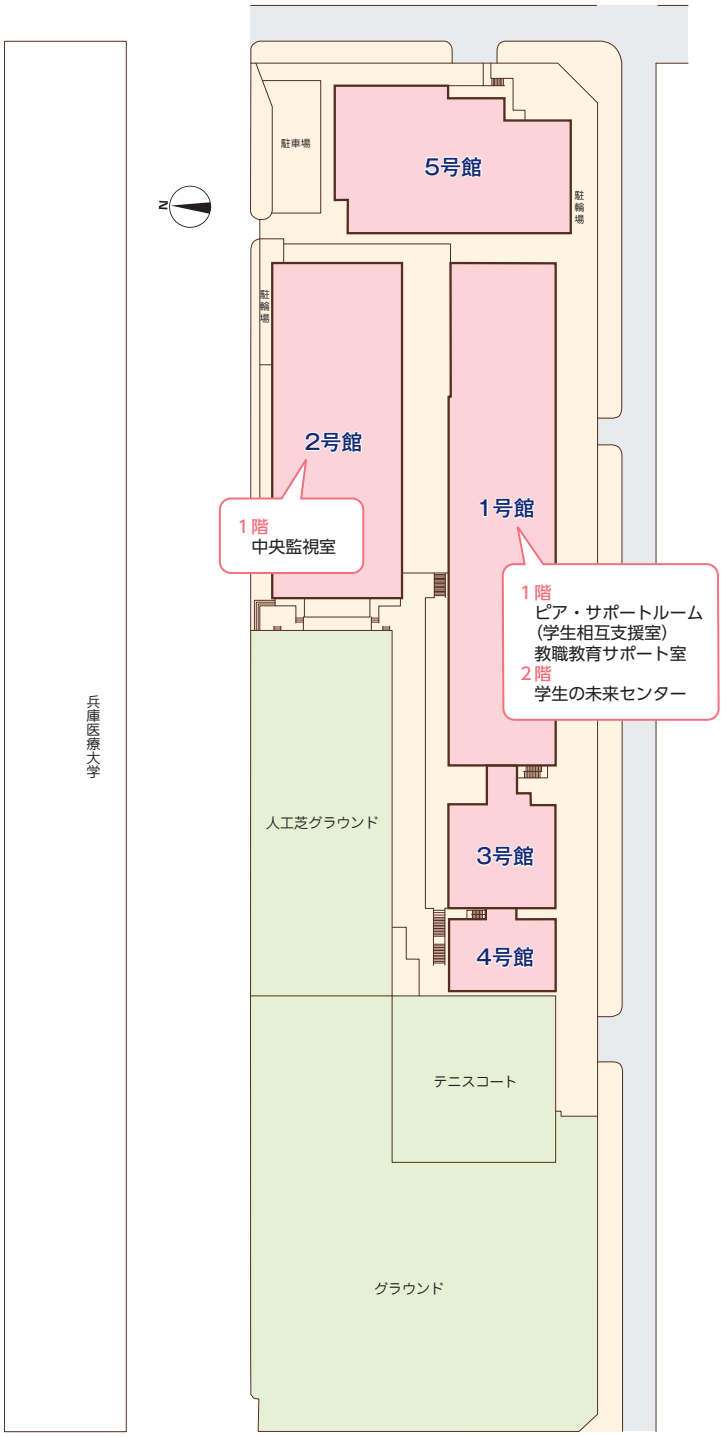
学内には学生、教職員以外に多くの人が出入りしていますので、不審者の侵入を全て防ぐことは不可能です。自衛・自己管理を徹底してください。

Memo

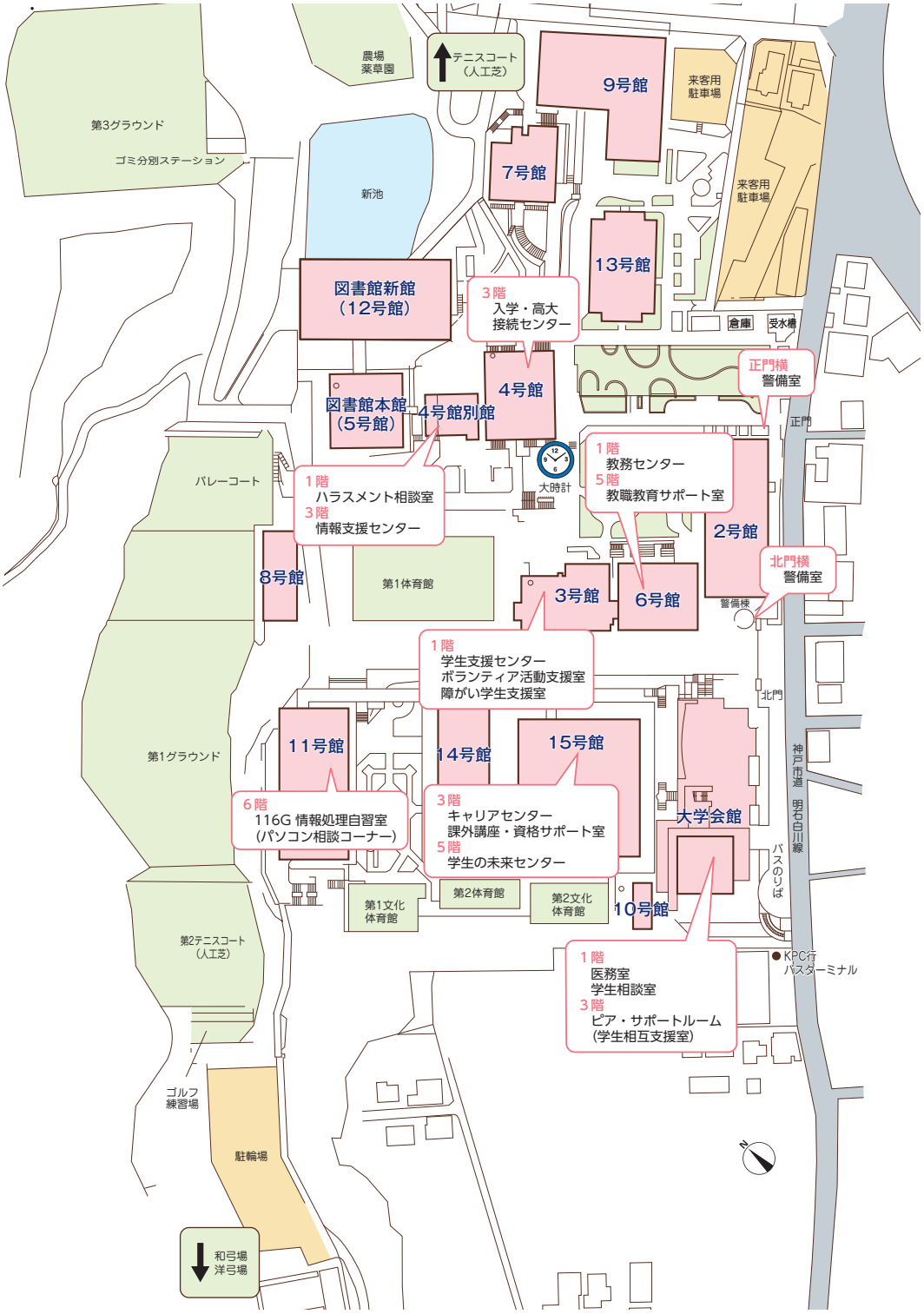
ポートアイランド第１キャンパス（KPC１）



ポートアイランド第２キャンパス（KPC２）

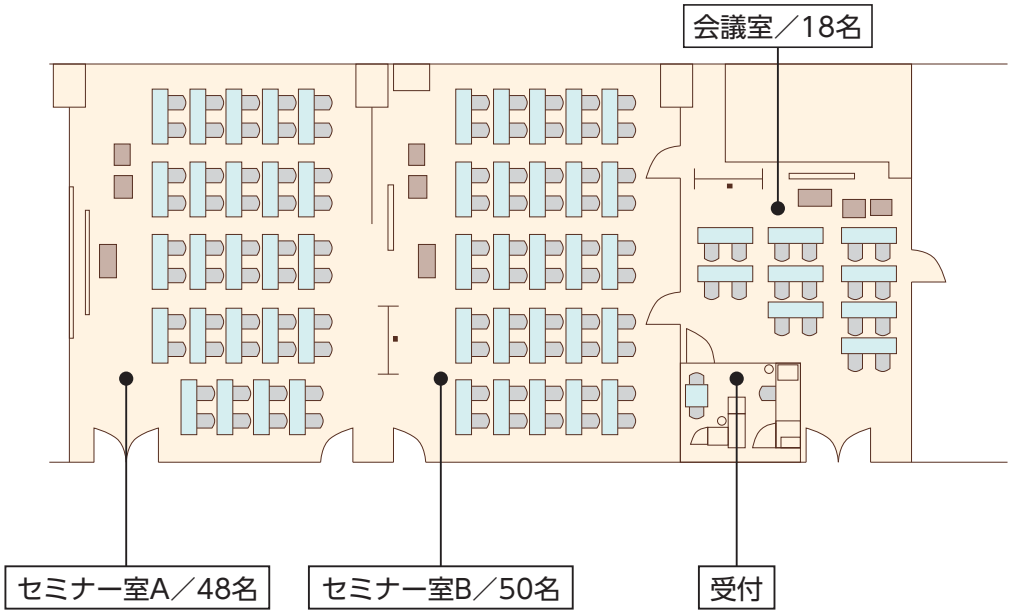


有瀬キャンパス（KAC）


農場
薬草園
テニスコート
（人工芝）
9号館
来客用
駐車場
第3グラウンド
ゴミ分別ステーション
新池
7号館
来客用
駐車場
13号館
図書館新館
（12号館）
3階
入学・高大
接続センター
倉庫
受水槽
正門横
警備室
4号館
図書館本館
（5号館）
4号館別館
正門
1階
教務センター
5階
教職教育サポート室
バレーコート
1階
ハラスメント相談室
3階
情報支援センター
大時計
2号館
8号館
第1体育館
3号館
6号館
北門横
警備室
警備棟
1階
学生支援センター
ボランティア活動支援室
障がい学生支援室
北門
第1グラウンド
11号館
14号館
15号館
神戸市道
明石白川線
6階
116G 情報処理自習室
（パソコン相談コーナー）
3階
キャリアセンター
課外講座・資格サポート室
5階
学生の未来センター
大学会館
バスのりば
第1文化
体育館
第2体育館
第2文化
体育館
10号館
第2テニスコート
（人工芝）
KPC行
バスターミナル
1階
医務室
学生相談室
3階
ピア・サポートルーム
（学生相互支援室）
ゴルフ
練習場
駐輪場
和弓場
洋弓場

神戸三宮サテライト

ミント神戸17F　セミナー室A、セミナー室B、会議室



神戸三宮サテライトへのアクセス

JR三ノ宮
　東改札口徒歩すぐ
阪神神戸三宮
　東改札口直結
阪急神戸三宮
　東改札口徒歩すぐ
神戸市営地下鉄　三宮
　東出口３番徒歩すぐ
ポートライナー三宮
　直結

神戸学院大学を知ろう

発行日：2023年３月30日
発　行：神戸学院大学
　　全学教育推進機構

〒651-2180
神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL（078）974－1551（代）
FAX（078）974－2569

印刷：福田印刷工業株式会社

神戸学院大学
KOBE GAKUIN UNIVERSITY